

いつまでもお元気で

敬老の日を目前に控えた9月18日、「新90歳」「新百歳」「百歳以上」の方々を平安正盛町長、島元嗣J.Aあまみ知名事業本部専務理事らが表敬訪問し、お祝いの品が贈呈されました。お祝いを受けた方々は次のとおりです。
(敬称略)

「百歳以上おめでとう」3名

榮 力 安 (103歳・知名)
川 島 本 (103歳・上平川)
新 山 八 (100歳・余多)

「新百歳おめでとう」2名

田 中 ナ ツ (100歳・知名)
泉 村 ツ ル (99歳・知名)

「新90歳おめでとう」41名

宮元前嶺沖松東東新田平内松平永榮伊飯泉植横	當榮田元久尾	納烟	ユナフ松植フ初敏ヨシミキ池力	ツミ(正名)	枝(住吉)	保(住吉)	ミ(住吉)	枝(屋母)	言(屋母)	シ(徳時)	ツ(徳時)	ク(徳時)	澤(知名)	ネ(知名)
ウ義ひ英ヒ精エ	ト哲で一デ子	夫(田皆)	キ(田皆)	ツ(田皆)	ミ(田皆)	枝(住吉)	保(住吉)	ミ(住吉)	枝(屋母)	言(屋母)	シ(徳時)	ツ(徳時)	ク(徳時)	澤(知名)
(余多)	(余多)	(余多)	(赤嶺)	(久志)	(新城)	(田皆)	(田皆)	(田皆)	(田皆)	(屋母)	(屋母)	(徳時)	(徳時)	(徳時)
山神國前皆森永吉松高大木前大興興神中上中	下田場田吉	田井尾山山下原山山山山山	チウマ升ツカ	乃(芦清良)	ル(芦清良)	ネ(芦清良)	乙(屋者)	棟(下平川)	子(下平川)	イ(下平川)	エ(下平川)	ヨ(下平川)	中	中
キヒツフ	ハッ	榮キアイ	幸(瀬利寛)	工(芦清良)	ト(芦清良)	ツ(芦清良)	乃(芦清良)	ル(芦清良)	ネ(芦清良)	乙(屋者)	棟(下平川)	子(下平川)	イ(下平川)	エ(下平川)
ヨ(知名)	サ(知名)	ル(知名)	ミ(知名)	三(知名)	フ(知名)	ツ(知名)	ハ(知名)	榮(知名)	キ(知名)	アイ(知名)	幸(知名)	工(知名)	ト(知名)	ツ(知名)



9月20日の敬老の日を迎え、各福祉施設、各字で敬老会が行われました。その中で、社会福祉協議会の敬老会で心温まるお礼の言葉をいただきましたので、ご紹介したいと思います。

敬老会のお礼(抜粋)

今日は天気も私たちの味方をし、すばらしい日に敬老会が出来ました。このことを心より嬉しく思います。

今日、私たちが敬老会をしてもらい、こんなに喜ぶことの出来るのは、職員を始めスタッフの方々が頭を使い、心を遣い、体を精一杯使ってお膳立てをして下さったおかげさまで、心より感謝致しております。

また、今日ばかりではございません。三月には桃の節句、五月には端午の節句、七月には七夕、九月には敬老会、十一月には文化祭、十二月には忘年会。そして、そのあい間あいに間は、私たちみんなの誕生会をしてくださっています。

毎月のような行事やイベントに、職員を始めスタッフの皆様方は年がら年中追われています。スタッフ達は一つの行事が終わるごとに「ほーっ」と肩の荷が下りると思いますが、それもつかの間、次の行事のことに、もう走り出しております。私たちは、そのスタッフ達の「ほーっ」と肩の荷を下ろした数だけ、喜びの数えをいただいております。本当にありがとうございます。人を喜ばせるということが、

それも介護や支援を受けなければならぬ人たちの安全を確保しながら、喜ばせるということが、どれだけ大変なことなのかを私も日々お世話になりました。そばで見ていてひしひしと感じさせられます。

いつもありがとうございます。今日はこの場所をお借りしまして、皆さまを代表して、職員を始めスタッフの皆様方に心よりお礼申し上げます。

(中略)

すばらしい職員やスタッフのいる社協。すばらしい自然の残っている沖永良部島。まだ情(じょう)・なさけ・心を失うことのない島の人々。こうしたすばらしい環境の元で、日々お世話になっている幸せ。

私は、沖永良部島で生まれ、育ったこと、また、社協でケアを受けていることを大にしておぼろけしたく誇りに思っております。これから先もまだまだお世話になります。職員を始めスタッフの皆様方どうぞよろしくお願いいたします。

さて話変わります。現在こちらで介護や支援を受けておられる方々は、大正生まれから昭和一ケタ生まれの人が多くいます。この人たちの中には、戦争でご主人をとられていたり、また、戦時中、戦後と食べるものがなかったりと、それはそれは、口では言い表すことの出来ないほど、ご苦労をなされた方達が多いと思います。でも今は

どうでしょう。食べるものも着るものも毎日が正月みたいなものです。昔は親が病気をすれば、子供が面倒を見るべきだと相場が決まっておりました。ところが、今は自分の子供ではなく他人様が私たちの介護や支援をして下さっているのです。

こうしたありがたい幸せな時代が来るまで長生きさせてもらっていることに感謝致します。

これからは、学校へ行って勉強をする必要もないし、大学へ行ったりして偉くなる必要もありません。地位も名誉も肩書きも今となつては無用のものとなりました。働きたくてもこの体では働けないということは、今まで一生懸命働いたから、もうそろそろこころへんで働かなくてもいいですよ、との神様からのごほうびだと私は思っております。

神様からのこの大切な時間。これからどれだけ時間が私に与えられているのか自分でもわかりませんが、この大切な時間を無駄にすることなく、皆さまや世間様の力をもらい助けてもらいながら、この世の垢を一つずつそぎ落とし、向こうへ行く時には、少しでもきれいな心、身軽に行けるように自然体で心静かに心温かく、すべてに感謝をしながらかれた時間を日々大切に生きていきたいと思っております。

平成22年9月25日

大江 悦(新城・82歳)